審議会等の議事の要旨（要点）

（基本情報）

会議名称	第14期 第4回立川市環境審議会
開催日時	令和6年10月30日（水曜日）13時00分～14時30分
開催場所	立川市役所本庁208・209会議室
次第	<議題> (1) 事業者ヒアリングについて（報告） (2) 第3次環境基本計画素案（概略）の検討について (3) たちかわし環境ブック2024について (4) その他 ・たちむにいフェスタ・環境フェアの開催について（報告）
配布資料	資料1 第3次環境基本計画策定に向けた事業者ヒアリング 資料2 立川市第3次環境基本計画素案（概略） 資料3 たちかわし環境ブック2024（案）
出席者	[委員] 植竹 兼政、武本 知子、西手 正光、森 比呂志、甲野 毅、村田 佳壽子、 宇賀神 俊介、児玉 大藏、中島 孝昌、近藤 豊、小林 健司(敬称略) [事務局] 五十嵐 智樹（環境資源循環部長）、小林 直弘（環境対策課長）、 大須賀 一夫（ごみ対策課長）、名和 憲甫（環境推進係長） 佐藤 一生（環境指導係長）、石原 光胤（ゼロカーボン推進係長）、 山口 文寿（環境推進係）
公開及び 非公開	公開
傍聴者数	1人
会議結果	・議題1：意見なし。 ・議題2：いただいたご意見を参考に修正を行う。修正内容については、 会長、副会長、事務局に一任。 ・議題3：意見なし。
担当	環境資源循環部環境対策課環境推進係 電話 042-528-4341

第 14 期 第 4 回立川市環境審議会 会議録

開催日時 令和 6 年 10 月 30 日（水曜日） 13 時 00 分～14 時 30 分

開催場所 立川市役所本庁舎 208・209 会議室

出席者〔委員〕植竹 兼政、武本 知子、西手 正光、森 比呂志、甲野 毅、
村田 佳壽子、宇賀神 俊介、児玉 大藏、中島 孝昌、近藤 豊、
小林 健司（敬称略）

〔事務局〕五十嵐 智樹（環境資源循環部長）、小林 直弘（環境対策課長）、
大須賀 一夫（ごみ対策課長）、名和 憲甫（環境推進係長）
佐藤 一生（環境指導係長）、石原 光胤（ゼロカーボン推進係長）、
山口 文寿（環境推進係）（敬称略）

< 議題 >

1 議題

（1）事業者ヒアリングについて（報告）

計画策定にあたっての施策立案の参考とするため、4 社に実施したヒアリング結果を報告。

○委員意見（概要）

（委員）

・異なった業種の 4 社は、どのように選定したのですか。

→昨年度のアンケートの中で事業者様から計画作成に関してヒアリングにご協力いただけるようであれば、通常無記名のところ事業所名を記載いただいた。記載いただいた 30～40 社から、業種や回答内容等を確認し、4 社を決定した。（事務局）

（委員）

・事業者との連携は重要である。計画策定においても、実施の段階でも事業者の意見を参考にお願いしたい。

（2）第 3 次環境基本計画素案（概略）の検討について

前回までの審議会の意見を踏まえ、内容を修正した計画素案について説明。

○委員意見（概要）

（委員）

・P25 から、大きな目標で成果指標が 2030 年までの二酸化炭素削減について記載されているが、これらは市民や事業者、市の取組を合算して削減していくと思う。実際に毎年どの程度減っているのかの数値を確認することは難しいと思うが、定点観測していくという考えのもとに、この計画の中で触れているページやアクションプランなりに記載はされているのか。

→アクションプランの中でも、当然取組については書かれている。市域全体の CO₂ 排出量

は、環境ブックで公表していく方向で考えている。(事務局)

(委員)

他自治体で「みんなの算定」というシステムの事例もあるので、調べていただければと思う。これは、市民や事業者に入力してもらい、地域の排出量を算定するシステムである。今から 10 年後を考えるとこういったシステムが出来上がっているとよい。今後そういったシステムの利用者が増えていけば良いと思う。最初の導入がされないと、いつまでも進まないと思うので、検討してほしい。

→アクションプランの中に、市域の CO₂ の数値を測定するために、みんなで協力するようなものはない。委員のお話をしていただいた内容は、我々にとっても魅力的なものである。現状は、区域内のエネルギー消費量を測定するのに数年単位のタイムラグがある状況である。国や都道府県レベルでも、より正確な算定方法を積み上げるのに苦慮している実態があるので、市域、町別、町内会単位で出るようなそういったシステムが将来的に出来上がれば未来に希望が持てると思う。個人情報特定できるような部分に配慮が必要などの議論が必要かと感じるが、今後の技術革新も含めて期待したい。(事務局)

(委員)

お金をかけて行うのが施策だと思う。どこにお金をかけるか。市民からすると削減量などがわかりづらく、文章化されたレジュメだけだと、協力度合いが弱いのが一般的である。

(委員)

・事業者ヒアリングでも、太陽光パネル等のコスト面の課題や太陽光補助金の申請の簡素化など指摘があるので、市としてワンストップでできることはないでしょうか。

P42 のアクションプランの戸建て住宅やビルなどへの省エネ化の情報発信や P43 の断熱改修補助の記載もあるが、この辺りも企業としては難しくてなかなかできないところである。そのあたりについて市として何か考えているか聞きたい。

→市内中小企業向けに様々な省エネ機器の改修工事に補助金を出しているが、あくまで一部分であり、総額が大きく事業者が踏み切れない現状がある。事業者に一步踏み出してもらうために効果的な方法を検討している。住宅に対する新たな支援は、市民を広く支援したいということ、その結果が CO₂ 削減につながるということから、新しい施策を検討している。今後、充実していきたいということで、今回の環境基本計画に載せている。(事務局)

(委員)

・市として太陽光パネルをどの程度導入していく方針かという点と、既存住宅の補助金申請の簡素化の点に力を入れていかないといけないと思う。

→補助金申請について、補助金の振り込みが遅くなってしまうことは事実ではあるが、基本、現地を確認したりして交付するのが、行政として必要な視点となる。事務処理を速やかに行うことは可能であるが、申請書類を出してすぐ補助金を出すことは難しい。

太陽光パネルについては、改修時に合わせるなどして公共施設には可能な限り取り入れていく方針である。現在建て替えに向けて進んでいる第二小学校等複合施設は、太陽光

パネル、省エネ性能の高い機器を取り入れ、排出する CO₂ が少なくなる施設を目指している。(事務局)

(委員)

・自治体ができることについて考えた中で、情報発信が従来の方法だと 2050 年カーボンニュートラルに向けて、なかなか進まない。知らない人に知ってもらえるような努力が必要と思う。2050 年までにカーボンニュートラルを達成するためには逆算し、毎年どの程度削減していけば良いのか、今年の再生可能エネルギー導入目標値を設定し、それを市民に公表するなどしていただければと思う。そこに補助金を東京都のものと合わせて利用できるように予算化してしていただくなどし、市民に補助金を利用しやすい環境づくりが重要と思う。そのため、先に申し上げた毎年の削減目標を示していくことが必要と思う。

→計画の中で 2050 年カーボンニュートラルと、2030 年の中間目標を掲げているが、基本的には均等に毎年削減していく考えである。長期の目標と共に短期間の目標を設定して市民に示すなど、分かりやすく広報するようしていきたいと思う。情報が色々ある中で、市民がたどり着けるようなしくみも検討している。

今の市の体制でワンストップサービスができるかは今後の課題であるが、ゼロカーボン推進係でも可能な限り説明させていただきたい。市のホームページでは、東京都や国の情報にリンクを貼るなど、目的をもって情報を探す方には比較的見つけやすくする工夫は行っている。エネルギーと言っても電気のみがエネルギーではないが、指標としては太陽光、再生可能エネルギーは、市民にとってもわかりやすく、話題にもなっているので取り入れている。2030 年、2050 年に向けての削減には、当然ガスや化石燃料の使用削減、燃料転換、機器の更新を含めた省エネ化を推進していくことが重要と考え、ご提案頂いた内容を含めて施策を検討していく。(事務局)

(委員)

・情報発信はどんどんしていただければよい。他市区町村では、自前で電力会社を持ち、再エネの活用を推進していくことで人口が増加しているような事例もある。立川市でもエネルギー施策が良いものだと認識されるような施策内容と情報発信が必要と思うし、具体的な市民の行動に対する金銭的な部分を市が率先して補填していけるようなものであれば、脱炭素が推進できると思う。

→予算については、現在掲げているアクションプランにある市長公約の既存住宅の断熱改修補助は、できるだけ確保できるよう努める方針である。(事務局)

(委員)

・P47 の気候変動適応策について、昨今、危険な暑さが多いが熱中症予防の項目の警戒アラートや暑さ指数が一般市民に浸透しているか疑問に感じる。9 番のひと涼みスポットは民間事業所もあると思うが、どのくらい市内にあるのか。

→暑さ指数の認知度については、昨年度のアンケートでもそこまで高くないので、熱中症予防の情報提供の一環で周知・啓発を進めていく。ひと涼みスポットの施設数は現在 250 施設ほどある。(事務局)

(委員)

・P40のPFASに関連して、週刊誌の記事で立川市の水が一番汚いという記事があった。立川で一番重要な問題ではないのか。記事のコピーを審議会で配布したいがどうすれば良いか。

→記事のコピー配布は著作権もあるので、出版社の許可があるのであれば、配布するか検討させていただきたい。週刊誌の記事については認識している。

立川市のPFASの値が高いという結果が出ているが、東京都で水道事業を行っており、皆さんの飲んでいる水については問題ないということである。暫定目標値を大幅に下回っているので、安心して飲めるということを問い合わせがあった際は回答している。(事務局)

(委員)

・今後基準値が世界的に厳しくなっていくと思う。野菜などの農業には立川の井戸水が使われているので、触れにくい部分かとも思うが、市長も公約の中で謳っているので、浄水器に補助を出すなどの具体的な取組をしてほしい。もう少し踏み込んだ取組をしてほしい。

→東京都の水道水は暫定目標値を超えていない。そのため浄水器の補助を出すことは現状考えていない。(事務局)

(委員)

・皆さんが口にする上水道については、暫定目標値の50ng/Lが守られているので大丈夫です。お話をされているのは井戸水であるが、井戸水は飲まないよう保健所からお知らせを行っているところで、飲まなければ何の問題もない。

(委員)

・野菜に井戸水をかけていないのか。

(委員)

・農家さんに聞いてもらわないとわからない。言い方を間違えると立川の野菜は危ないという風評被害につながるので、慎重にお話をさせていただきたいと思う。

(委員)

・カーボンオフセットなど、エネルギーの使い道などが書かれていないと思う。すべての化石燃料の使用が今後やめられるか疑問であるが、その答えとして、まずは省エネ、次に再生可能エネルギーの導入という流れは正しいと思う。そこを取り組んだ後の部分をどう減らすかの方策として、個人や事業者も一時的にカーボンオフセットを行うことでCO₂を排出してもいいという内容も周知していただければと思う。

学校教育について、指標の校数や回数は市内全校の数値となっているのか。また、学校だけでなく事業者に対しても内容についてこまめに電気を消すといった、直接行動をできるような、ハード面だけでなくソフト面でも取り組んでもらう話が出てくると良いと思う。

→環境学習支援の校数・園数は28となっているが、これは環境対策課から環境学習のメニューの一覧を提示して、それに対する申込のあった校数・園数であり、複数申し込むケー

スもあり市内全校の数値ではない。

P62 の環境学習講座については、一般市民向けに学識経験者やボランティアに協力いただきながら開催しているもので、学校のものとは別で設定している指標である。(事務局)
(委員)

・太陽光パネルや蓄電池の補助については、公共施設にも適用されるのか。

→学校施設は国が実施する補助メニューがあるので活用している。(事務局)

(委員)

・P45 シェアサイクルの普及について、立川市も自転車が利用しやすいようなソフト、ハード両面の整備があると良いと思う。理想では、多摩川の土手沿いを自転車コースとして整備するなどが良いと思う。これは脱炭素推進だけでなく観光地化も期待ができる。そういった、道路整備などの自転車が走りやすい環境整備を検討していただきたい。

→P45 シェアサイクルの普及について、立川市も自転車が利用しやすいようなソフト、シェアサイクルの実証事業を行っており、多摩川に面する自治体と多摩川ツーリングイベントを企画するなどした。コロナ禍で事業が縮小してしまった経過もあったが、コロナ禍が終わり再度自転車の利用も増えてきていると思う。環境にやさしいという点でシェアサイクルを取り上げているが、交通法規など法律関係の問題もあるので他の部署と連携しながら計画的な整備をしていきたい。(事務局)

(委員)

・東京都でも支援をしており、出張の際は自転車を借りるスポットを利用して今後のシェアサイクルの拡大について実証実験をしている。

(委員)

・他区の委員をしていた際に、区道への自転車道路の整備を計画に入れた。計画に盛り込まなければ、施策は進んでいかないし、具体的な行動にならないと思うので、ぜひ計画に盛り込んで推進していただきたい。

→シェアサイクルについては、自転車活用の推進計画を別途交通対策課が作っているので、詳細についてはそちらのアクションプランに内容は委ねているので、環境基本計画では環境の観点からの記載にとどめている。(事務局)

(委員)

・縦割りに感じるので、横の繋がりを強化して連携していってもらえればと思う。

→計画書のアクションプランを作成する中で、直接交通対策課と協議を行っている。内容について連携は互いに行っているところで、今後も情報共有に努める。(事務局)

(3) たちかわ環境ブックについて

環境ブックの特集記事や掲載内容について説明。

○委員意見（概要）

・意見なし

(4) その他

- ・たちむにいフェスタ・環境フェアの開催について（報告）
- ・次回環境審議会の日程について

以上